

令和3年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る中間評価結果

領域番号	6102	領域略称名	中緯度大気海洋
研究領域名	変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用 hotspot		
領域代表者名 (所属等)	野中 正見 国立研究開発法人海洋研究開発機構・付加価値情報創生部門（アプリケーションラボ）・グループリーダー		

(評価結果)

A－（研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる）

(評価結果の所見)

本研究領域は、国内の大気・海洋研究者の力を結集して、先端的な観測技術と数値モデリングとの融合研究により、中緯度大気海洋相互作用に特有の多階層的な過程とその間の相互作用の理解を飛躍的に進化させることを目指している。

温暖化した気候系で強い暖流などの hotspot が果たす役割の解明、数値気候モデルでの将来の気候の予測、温暖化した hotspot 近傍での顕著な気象現象の変調を観測など、社会的感心の高い研究テーマについて、適切な課題分けと共に横断研究 WG も設定され、計画外の観測研究も実施するなど、機動的に領域運営がなされている。論文数をはじめ多くの研究成果・業績が得られ、後半の更なる発展が期待される。

一方で、主要な研究データとなり得る観測研究の COVID-19 の影響による遅れは本領域研究の進捗に影響を及ぼすものであるが、今後の研究計画の修正・データ解析の工夫等により領域の目的を達成できるよう研究を進めることに期待したい。また、現象論に終わらないよう留意いただき、「気候学のパラダイムシフト」を目指して、より広汎で俯瞰的な研究推進を期待したい。